



能勢高校ニュースレター

第64号 H.24. 12月発行

第10回能勢地域小中高一貫教育 ・連携型中高一貫教育研究発表会 開催

去る11月21日（水）に「第10回能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育研究発表会」を開催しました。この大会は、能勢地域の中高一貫教育の成果を幅広く発信するとともに、多くの方々から意見や助言をいただくことにより中高一貫教育を一層改善充実させる目的で行われています。今回は『新4系列がつなぐ「地域交流」と「国際理解」』をテーマに次のような内容で実施しました。

当日は、能勢町内の全教員をはじめ、町内外からの来賓、教育関係者、保護者や地域の方々など、約200名の方々の参加をいただきました。

第一部	能勢高校4系列に関わる授業の公開 ・人文・理数系列 NS国語、NS数学、NS英語 ・国際・情報系列 「総合的な学習の時間」 - 自己表現講座 - - 世界の貧困と児童労働 - ・人間・環境系列 「発達と保育」 - わくわく教室 - 「心理学入門」 - 熟議・町の未来をデザインしよう！ - ・食・花・交流系列 「フルーツガーデン」 - ブドウジャムの製造 -	(14:00~15:00) 【各教室】東西中学生 【柔剣道場】能勢高&東西中学生 【視聴覚教室】能勢高&東西中学生 【家庭科実習室】能勢高校生&幼児 【会議室】能勢高校生&町内有志 【農場】能勢高校3年生 東郷小学校5・6年生
------------	--	--

第二部	全体会 ・挨拶 ・ユネスコスクール活動報告 ・指導講評 ・パネルディスカッション「能勢町をデザインしよう」 パネラー 武田緑 (“CORE+”講師)、西田彦次 (能勢高校を応援する会会長)、 中田あかね (能勢高校3年生)、福西成剛 (同3年生)、佐川京介 (同2年生) コーディネーター 寺脇研 (京都造形芸術大学教授) ・謝辞	(15:20~17:00) 【本校体育館】 能勢町教育委員会 能勢高校1・2年生 大阪府教育委員会 能勢高校 校長
------------	---	--

第一部 公開授業内容紹介

a) NS国語、NS数学、NS英語 (能勢高校教員による高校での学習内容を先取りした授業)

- <国語> 「古典への誘い (いざない) 『伊勢物語』を読む」
平安時代 女性にモテモテだった「光源氏」「在原業平」の兼ね備えていた条件とは？
現在の「木村拓哉」「佐藤健」は彼らを上回れるか？
- <数学> 「ユークリッドの互除法～最大公約数を求める～」
高校数学の中でも難度の高い「整数」分野を扱い、高度な論理展開に触れることで、数学の醍醐味を味わう。
- <英語> 「The Beatles 道を継いで学ぶ」
The Beatles の名曲を聴き、その英語らしい表現を学ぶ。John Lennon “Stand by me” を聴き取り、英語で歌う。自分らしい英語の世界へ！

b) 「自己表現講座」 (能勢高校2年生と東西中学年3年生との交流授業)

- <総合的な学習の時間>
「インプロ (即興劇) を体験する」 講師：月田有香 (女優、心理カウンセラー)
演劇のメソッドを生かすことで、様々なワークショップを通じて自己表現を行い、表現力、感受性、コミュニケーション能力を高め、日々の生活に生かすことを学ぶ。

c) 「世界の貧困と児童労働」 (能勢高校2年生と東西中学年3年生との交流授業)

- <総合的な学習の時間>
「Kids can! ～日本の子どもだからこそ出来ること」
講師：Faith Amano (NGO “Free The Children Japan” モチベーションスピーカー)
世界の貧困、児童労働、差別やいじめについて学ぶ。貧困、児童労働のサイクルから抜け出すために必要な「教育」と「自立支援」、そしてアクションを起こすための情熱とやる気について学ぶ。

d) 「心理学入門」熟議-町の未来をデザインしよう！- (能勢高校2, 3年生)

- <心理学入門> 「能勢町を活性化するために町をデザインする」～熟議の心得をつくる～
講師：武田緑 (“CORE+”講師)
「心理学入門」で、全5回の“熟議”の授業を展開する中の、第5回最終回の授業。生徒に3つの力「情報収集力、考えをまとめる力、伝える力」と2つの姿勢「主体的に学習に取り組む姿勢、積極的に社会に関わる力」を獲得させる。「能勢の活性化」をテーマに、様々な立場の人の意見や考えを聞きながら、自分の考えを深める。討議を重ねながら解決策などを見だし、実現可能な具体的行動へつなげる足掛かりとする。

e) 「わくわく教室」 (能勢高校2年生、3歳児とその保護者)

- <発達と保育> 「わくわく教室から幼児との関わり方について学ぼう」
能勢町子育て支援センターとの連携授業で年間9回の「わくわく教室」の第6回目。魚釣り遊びを子どもたちと一緒に楽しむ中での生徒自らの気づきや体験をもとに、幼児の発達段階における心身の特徴について理解を深める。また幼児とその保護者との交流 (異年齢体験) により、自己理解、自己受容の基礎とする。

f) 「ブドウジャムの製造」 (能勢高校2, 3生と東郷小学生との交流授業)

- <フルーツガーデン> 「農場生産物の利用 果実の加工 (ジャム製造)」
本時に使用するブドウなどの果実は、本校生徒が栽培管理を行ったものであり、下処理を行い冷凍保存しておき、加工原料として使用する。小学生も栽培管理の一部を体験しており、自分で育てたものを加工し食する実習で、満足感と達成感を得る。高校生が小学生を指導・援助することで、異年齢の互いの学び合いを実践する。

第二部

①ユネスコスクール活動報告

「ユネスコクラブ・米プロジェクト活動報告」

能勢高校2年 上田杏奈、野瀬楓水 1年 上坊つかさ、内門優斗、谷井宏基
2014年に開催される「ユネスコスクール高校生世界フォーラム」を運営するための準備セミナーの様子と、ユネスコのプロジェクトである「米プロジェクト」における、大阪ユネスコスクールネットワークの「持続可能な生産と消費」についての研究活動の様子を報告しました。

②パネルディスカッション「能勢町をデザインしよう」熟議

パネラー “CORE+” 講師 武田緑、能勢高校を応援する会会長 西田彦次
能勢高校3年 中田あかね、福西成剛、2年 佐川京介
コーディネーター 寺脇研（京都造形芸術大学教授）

第1部公開授業「心理学入門」熟議「町の未来をデザインしよう！」で、熟議を重ねたテーマについて、パネルディスカッションでいっそうの議論を深めました。



パネルディスカッション

パネラーの西田会長は、高校生が若者らしいアイデアを出して、町の活性化に貢献してほしいと、熱く語られました。また、武田講師は熟議の授業を通して、高校生がどんどん意見を出せるように変化した様子をお話されました。高校生たちは、「熟議で、1つのことについて話し合い、深く考えるという新しい体験ができて、とても楽しい時間を過ごせた。」と、積極的な意見を述べました。最後に寺脇教授から、答えのないことを議論することの楽しさと、小人数だけでなく、大人数で話を活発に進めることの意義についてまとめていただきました。

短期留学生 クロイ(オーストラリア)

A F S秋の短期留学生が、オーストラリア・タスマニアから来日し、10月9日(火)～10月26日(金)の間、能勢高校に通学しました。短い期間でしたが、1年生のクラスに所属して学校生活を共にしました。2年生全員には、オーストラリアについてのプレゼンテーションを行い、自国の学校生活や文化を紹介しました。また、スリランカからの長期留学生ディルと一緒に久佐々小学校を訪問し、多くの児童生徒と交流することができました。「次は、長期留学生として能勢に来たい！」と言って、帰国しました。

久佐々小学校にて小学生に読み聞かせをするクロイとディル



学校最後の日、別れを惜しんでクロイとディルと記念撮影



マレーシアから留学生イーアールが来ています！

能勢ライオンズクラブの国際交流で、クアラルンプールから短期留学生イーアールが来ています。12月15日(土)～1月6日(日)の間、歌垣の平岡さん宅にホームステイしています。来日後、17日(月)には早速、ディルと一緒に天王小学校に行き、マレーシアの国の文化を紹介しました。小学生と一緒に書道や音楽、そして、お鍋の給食を楽しみました。「日本でお正月を体験できるのは、とてもうれしいです。能勢高校では冬休み前の4日間を過ごしますが、来年1月末のマレーシア修学旅行での再会も楽しみにしています。」短い滞在ですが、能勢でたくさんのお会いがありそうです。



天王小学校でマレーシアとスリランカのお話



みんなでお鍋の給食



能勢高校での自己紹介



「自己表現講座」



「世界の貧困と児童労働」



「町をデザインしよう！」(熟議)



「NS 国語」



「NS 数学」



「NS 英語」



「発達と保育」



「フルーツガーデン」



ユネスコスクール活動発表